

令和 元 年度 福岡市立 [博多高等学園] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>○めざす学校像 ・家庭、地域、企業などとの連携を通して、生徒の「ヒューマンスキル」や「働き続ける力」を育成する学校 ・家庭、地域、企業などとの連携を通した開かれた学校、信頼される学校</p> <p>○めざす生徒像 ・働き続けることができる知識・技能・態度・習慣を身につけた生徒 ・自他を大切にできる心を持ち、自ら豊かな生活を築く力を身につけた生徒</p> <p>○めざす教員像 ・公務員としての倫理観、企業人の感覚と社会性を持ち、生徒の規範となる教職員 ・生徒や保護者の思いや願いを適切に受け止め、信頼と期待に応える教職員 ・開校時からの積み重ねを大切にしつつ、常に自ら考え、積極的に資質・能力の向上を図り、キャリア教育の専門性を有する教職員</p>		<p>働き続ける力を育むための授業力の向上</p>	<p>○「働き続ける力」の整理 ○「教育課程」の工夫・改善 ○「職業科」における授業及び評価の改善</p>
		進路支援の充実	<p>○フォローアップの充実 ○実習件数の増加 ○新規開拓企業の増加 ○小・中学校むけの説明会及び見学会の充実</p>
		生徒指導及び教育相談の充実	<p>○生徒指導における組織的対応の推進 ○個に応じた指導の推進 ○道徳授業の充実 ○教育相談の実施と効果的活用</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
「働き続ける力」を育むための「教育課程」と「授業」の工夫・改善	「働き続ける力」の再整理	・学校教育アンケートにおいて、「働き続ける力の定義について研修等を通して改めて考えることができた」が97%であった。	
	新学習指導要領の実施に伴う「教育課程」の工夫・改善	・学校教育アンケートにおいて、「教育課程の工夫・改善に向けて新学習指導要領について学ぶことができた」が88%であった。	
	「職業科」の理解・整理と授業改善	・学校教育アンケートにおいて、「テーマ研修等を通して職業科の理解・整理や授業改善ができた」が88%であった。	
	「生活基礎」における習熟度別学習指導の充実	・学校教育アンケートにおいて、「学年として生活基礎において習熟度別学習指導の充実ができた」が79%であった。	
進路支援の充実	家庭や関係機関との連携によるフォローアップの推進	・学校教育アンケートにおいて、「家庭や関係機関と連携し、生徒の進路支援に取り組むことができた」が88%であった。	
	家庭、企業との連携による現場実習及び作業学習の充実	・学校教育アンケートにおいて、「家庭や企業と連携して現場実習及び作業学習の充実を図ることができた」が88%であった。	
	関係機関との連携による企業開拓の推進	・学校教育アンケートにおいて、「学校として企業や関係機関との連携強化や新規開拓ができた」が61%であった。	
	小・中学校向けの学校説明会及び学校見学会の充実	・学校教育アンケートにおいて、「学校として小・中学校向けの学校説明会及び学校見学会の充実を図ることができた」が79%であった。	
生徒指導及び教育相談の充実	生徒指導や教育相談における組織的対応の推進	・学校教育アンケートにおいて、「生徒に問題行動等があったときに、管理職や学年職員等で組織的対応ができた」が79%であった。	
	全学年におけるQUアンケートの実施と効果的活用の推進	・学校教育アンケートにおいて、「QUアンケートの実施はできたか。また、実施結果を効果的に活用できたか」が82%であった。	
	人権教育の充実	・学校教育アンケートにおいて、「道徳やその他の教育活動全般を通して、人権教育を意識した学習を行うことができた」が88%であった。	
	教育相談の定期的実施と効果的活用の推進	・学校教育アンケートにおいて、「教育相談日やその他の時間に生徒の相談に応じた」が91%であった。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>○学校経営方針に基づき、教職員が組織的に教育活動を進めていると感じる。学校教育アンケートは客観的指標として有効である。</p> <p>○家庭・企業・関係機関としっかりと連携していることが生徒の卒後の就労実現に繋がっていると感じる。</p> <p>○地域に向いて作業学習を実施したり、地域との交流を積極的に行ったりしていることで、博多部にある学校としての存在感がある。</p> <p>●課題のある生徒への個別の支援を強化する必要がある。</p>			